

未来を信じて



なか がい むね はる
豊岡市長 中 貝 宗 治

「未来への責任」。合併協議から市長選、新「豊岡市」の初代市長への就任。この間、常にこの言葉を胸に走り続けてきました。

私たちが今こうしてあるのは、過去における未来に向けた努力のおかげです。とするならば、そのことに限りない感謝を捧げつつ、今を生きる私たちもまた将来世代のための努力を続けていきたいと思えます。

未来への責任を果たしたいという人々の熱い思いが、新市を誕生させました。いよいよ、新しいふるさと「豊岡市」が本格的に動き出します。

厳しい財政状況

5月2日の初登庁以来、予算編成の作業に追われました。国・地方を通じた厳しい財政状況のもとで、合併という手段を用いたとしても、構造改革の波は地方自治体を追い詰めています。さらに、昨年の台風被害による災害復旧費も財政に大きな影響を与えています。

荒波に向かつての航海です。しっかりと舵取りをしていかなければならないと決意を新たにしています。

傷ついたふるさとの再生と

新生豊岡の指針の構築

新市の船出は、走りながらの船体の修復と、進むべき航路の決定からスタートします。

今年の台風によって傷ついた美しいふるさとをまず元の姿に戻すこと。そして、まちづくりの基本的な方向を定めていくという作業です。

台風23号は、市民の「普通の暮らし」を奪い、野山や田畑、小川といった大切なふるさととの景色を大きく傷つけました。道路が壊れ、橋が落ち、護岸や裏山が崩れた箇所もたくさんあります。まず、それらを再生すること。加えて、安全・安心な地域を構築していくことが最優先の課題になります。

同時に、私たちは未来への「希望」を見出さなければなりません。新生「豊岡市」をどのようなまちにしていくのか、誇りに思えるふるさとにするにはどのような方向性をもって進んでいけばいいのか。合併協議の中で積み重ねられてきた議論を基に、誰もが「夢」を感じられる地域像を描く必要があります。

対話と共感の市政を

そのために、「対話と共感」を市政

新生「豊岡市」の

運営の基本に据えます。できるだけ多くの方々の声をお聞きし、共感しながら、「夢」を実感できる地域づくりを進めてまいりたいと考えています。市は、施策をわかりやすい言葉で具体的に語り、議論し、実現していけるよう努力します。市民の皆様にも、まちづくりに積極的に関わっていただくことを期待します。「対話と共感」の中で、生まれたばかりの新市を大切に育てていきたいと考えています。

広大な新市には、数多くのコミュニティがあり、個性があり、それぞれに光る真珠の粒があります。その一つひとつの輝きを大切にしながら、心を一つにして手を携え、光り輝く真珠のネックレスにつなげることができれば、きつとどこにも負けない素晴らしい地域になるものと確信しています。

出航の時。新生「豊岡市」の未来を信じて。

新市長の横顔

豊岡市下宮 昭和29年生
京都大学法学部卒（昭和53年）
兵庫県庁 入庁（昭和53年）
兵庫県議会議員（平成3年～13年）
豊岡市長（平成13年～17年）

中貝新市長初登庁

5月2日、中貝宗治新豊岡市長が、市職員ら約200人に出迎えられ、なか、初登庁しました。「豊岡市」の初代市長として、平成17年5月1日から4年間の任期で市政を担います。



市職員から花束を受け取る中貝市長



初登庁式で職員に訓示